

2020 年度事業報告

はじめに

新型コロナウイルス感染症により、利用者、職員の安全を守るための対応の変化や情報収集を行い、衛生用品等の物資の調達では支援しあい、感染防止への努力しているところです。ところが、国・自治体の対応は、介護・障がいの利用自粛は「出来高払い」のため保証はなく、介護・障がいの「慰労金」は 1 回のみで、保育はありませんし、PCR 検査でいえば、居宅サービス（虹の家）は対象外です。脆弱な施策の中で、日々職員は緊張の中で感染対策を行い、今はワクチン接種に向けて職員は奮闘してくれています。収束の兆しが見えない中で、緊張はしばらく継続しそうです。社会福祉としての役割を果たしながら職員の安全、利用者の安全を確保し、質の確保と向上のために様々な現象に丁寧に対応しながら運営していきたいと思えます。

2020 年度に事業計画で情勢の特徴を以下のように位置付けました。

2020 年の予算では社会保障を抑制し、消費税を上げる、一方で防衛費を過去最高とする国民生活を犠牲にし、戦争する国づくりへと進めようとしています。また、アベノミクスにより貧困と格差は広がり、子どもの 7 人に 1 人は相対的貧困状態にあり、年収 200 万未満の労働者は 13 年連続で 1000 万人を超えています。非正規労働者数も増加しています。貧困層が増え、所得・仕事・住居不安等困難が拡大しています。社会保障による生活保障なしには孤独死などの孤立は進んでいきます。年金制度では、基礎年金の給付額の削減、医療保険制度の改革では、医療提供体制の縮小、窓口負担の増で、患者になれない病人を増やし、地域医療を支えている中小病院の役割を否定し、地域医療を破壊するものです。介護保険 20 年、財政事情を優先し制度の様々な欠陥が増幅し「保険あって介護なし」の事態を深刻化させ、保育は、2019 年 10 月から保育・幼児教育の無償化がスタートし、実費部分について保護者負担となり給食費などが対象外となりました。低所得層においては負担増となっています。公的支援制度の拡充、権利としての社会保障を全世代に向けて底上げしていくことが求められます。

保健福祉の会として①職員・事業所を守る、②憲法 25 条に基づく生存権保障に根差し、だれもが人間らしく尊厳のある任性が送れるようにするために、権利としての公的福祉の在り方を追求していく、③住み慣れた地域で人と人とのつながりのあるまちづくりを進めていくために制度の狭間で起きていることにも目を向け、地域団体とも連携しながら運営してきました。一層の厳しさが予想される介護制度・保育制度・障害福祉サービス制度の動きに対し署名活動等運動も含めて対応してきました。コロナ禍において、感染症対策、行事の見直し等制約もある中で、人材確保、幹部職員・職員の育成を行い、サービスの質の向上、職員処遇の向上、組織統治の確立などの具体化を図り、「利用者・子どもの立場に立った」事業の維持・発展に努めてきました。

2020 年度は下記を重点事項に据えて取り組んできました。

- ① 介護事業の安定的な運営
- ② 保育園の安定的な運営
- ③ 児童支援事業の運営
- ④ 利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供 各事業所共通
- ⑤ 制度にない福祉サービスの展開

- ⑥ 各事業所の予算達成
- ⑦ 幹部職員の配置と育成、職員の雇用と育成と労働条件の整備
- ⑧ 社会保障制度を守り発展させる活動
- ⑨ 法人としての役割、組織の在り方を検討し具体化する

以上の取り組みの詳細は、各事業所の報告を参照いただき、「2020年度事業」の概要を以下の通り報告します。

1. 介護事業の安定的な運営

○特養都和のはなでは、職員の退職が例年になく多く、オリエンテーションの重なりや非常勤から派遣への対応など人件費が増加した。退所は、9名（看取り3名、病院での死亡4名、転院2名）、同時期に複数の退所があり、老健西の京と入所調整をしている。ショートステイでは京都市内の居宅介護支援事業所に空き情報をFAXし利用希望を募るなどして40日アップした。身体拘束は、夜間のみ月数回1名。行事としてはコロナ禍の中で対外的なことは中止し、11月から新たに昼食テイクアウトなど取り組んだ。入所者とご家族との面会は、感染対策を取りながら玄関で行っている。

○西の京は、新型コロナ感染症に振り回されサービス収益は落ち込み感染対策費が膨張したが、補助金・助成金収益を得たため、設備への投資を執行したことは特徴である。コロナ対応が優先的課題となる中で、年間目標があいまいになる傾向もあったが、職員一同協力して感染対策に取り組み、利用者・職員を守ってきた。ベテランを含む退職が相次ぐ一方で、介護に興味を持つ若手職員を迎え、職員構成は変化した。研修がWEBで行われる中で昨年より多くの職員が民医連の研修に触れることができた。

○グループホーム都和のはなは、看取り1名、入院4名延べ8回で、老健西の京からの3ヶ月のミドルステイで入所する。介護度の平均2.89（昨年2.44）、平均年齢93歳（昨年91.4歳）となっている。安全管理では、転倒転落が多く下肢筋力の低下が顕著である。続いて多いのが落葉であった。重度の入所者のケアに比重がかかり軽度の方に対しての細かなケアができきれなかった。ケアの統一の為、申し送りノートや記録の確認等を行ってきた。コロナ禍の中で、面会制限等で毎月手紙と写真を郵送してきた。ペットコントロールが課題である。

○ケアステーション虹の家は、管理者の育休明けにより訪問介護は前半45目標に届かなかったが、後半目標を超える月もあり平均44件となった。コロナの影響で実地指導は延期になり、今年度は行われなかった。

2. 保育の安定的な運営

○各園共に新型コロナウイルス感染症により、感染対策、保護者や職員対応、行事の見直し等々その都度行ってきた。

○白い鳩保育園では、120名定員で、123名でスタートすることができた。途中入退園もあり年平均122.75人であった。0歳児が少なく1・2歳児が多いこともあり生活グループを0・1歳児、1・2歳児、2歳児し、柔軟に対応してきた。職員育成、保育の質の向上も含め、会議の在り方研修、事故やヒヤリハットの振り返りを行ってきた。障がい児（脳性麻痺）の保育を行うにあたって、実践と学習、全職員での共有を行ってきた。障がい児認定12名。

○洛西保育園では、120名定員で年平均136名受け入れ短時間が4か園の中で少なく、保育時間が長い子どもが多い。医療的ケア児2名、障害児認定13名。職員では、契約職員で看護師を採用した。また、途中退職、産休育休、介護休暇、病休対応でわかっていることに対しては年度初めから採用するなどの対応をしてきた。

○あらぐさ保育園では、50名定員年平均56.4名の受け入れをしてきた。育休明けの職員も戻り職員体制としては安定した。幼児クラス一人担任（4・5歳で正規一人＋非正規1名）ということでクラスを超えた連携と、保育観保育方針など丁寧な話し合いを通して積み重ねてきている。

○青い空保育園は、60名定員で年平均77名、128.3%の受け入れで、短時間保育が多い。障がい児認定は13名と支援の必要な子ども、家庭が多い。職員育成の為に、自己分析、面談、会議の持ち方に工夫するなど取り組んでいるが苦慮している。

○法人内委員会

- ・安全委員会では、2017年度からの事故・ヒヤリハットに集計と分析中。国や京都市集計による事故を受け各園の見直しや各園の見失い、離乳食の進め方での確認ミス、誤食、職員の置忘れ、門が開いている、物が落ちている等の事故やヒヤリハットを情報共有し、各園に持ち帰ってきた。また、委員会による各園の午睡・保育室・おやつの様子の安全点検をする中で新たな危険箇所が見つかりいい機会となった。
- ・クレーム解決委員会では、近隣からの苦情（駐車・騒音）、けがの報告忘れと伝え方、担任について、紛失など各園の報告を受け情報を共有した。新たな用紙の作成、学習を行ってきた。
- ・給食委員会では3か園に新入職員が入り、職種を超えた給食委員会は意見交換ができ有意義であった。行事食や献立について検討することができたが、学習（研修）する時間が少なかった。
- ・社会保障と平和委員会では、2019年度大人食堂を計画していたがコロナで延期となった。本の紹介を3回発行した。

3. 児童支援

○パーチェでは、コロナ禍になかにおいて登録数は変化ないが、登園しない、契約が先延ばしになる方がいた。4月は8.8人/日であったが5月は10.1人/日になった。リモートでの居宅支援が可能となり電話、WEBで4月12名、5月3名実施した。集団療育がしにくい子どもが多く、個別療育5名の週3日間おこなった。京都市実地指導で個別支援計画が6ヶ月超過している為5年に遡って返金した

○第二パーチェでは、利用者が減少傾向。京都市実地指導で個別支援計画が6ヶ月超過している為5年に遡って返金した

○児童相談支援パーチェでは、コロナ禍の為WEB等で本人とつながる場面を作るなど工夫した対応してきた。幼児はセルフプランか相談支援の選択制とし、年長児は就学に向けて相談支援の契約することを優先した。年度初め発達相談所の事務が滞り受給者証発行が遅れ一旦未請求となる。相談支援専門委員1人当たり1月40人未満となっている為、年度変わりは超えてしまい減算請求となる。

4. 利用者の立場に立つ質の高いサービスの提供

○利用者の権利を守り保障できるよう、環境整備、質の向上のために積極的な研修参加、業務の効率化職種を超えた連携に取り組んできた。

○技術・専門性の向上について、WEBでの研修が多かったため民医連の中堅研修参加者が増え、保育の法人内研修（安全）会議の場でも共通の土台の上に立った話し合いができている。

○職種を超えての連携した取り組みで、介護は多職種による職場運営を進め、保育の現場でも職種・クラスを超えて連携を行ってきたが課題は多い。

○人材育成の為に会議の持ち方、面接、実践検討等行っている。丁寧に積み重ねていきたい。

5. 制度にない福祉サービスの展開

制度の狭間にある要求に焦点を当て、それに応える福祉サービスの提供、

○介護分野…利用者減免、西の京だより発行（中京・右京区の居宅）、障害者就労支援事業「喫茶はな」の運営協力

○保育分野…地域の子育て支援（遊ぼう会・地域新聞の発行）

○児童支援分野…中京区発達支援ネット2回講義形式として実施、保健センターこあらっこでは子ども理解保護者支援に努めてきた。児童館発達支援ほっこりランドでは子育て支援はストップしているが講師として前期後期の2回務めた、地域新聞の発行

今年度は、コロナ感染症の為、中止が多かった。

6. 各事業所の予算達成

○事業活動のサービス活動収益は、15億7,067万円となり、予算比で102.9%、4,388万円増となった。事業毎では、介護事業：予算比96.5%、保育事業：予算比110.8%、児童支援事業：予算比103.2%となった。

○当期活動増減差額は、保育事業5,848万円・児童支援事業2,496万円の黒字、介護事業▲1,953万円の赤字を計上し、法人合計で7,854万円の黒字（収益比率5%、予算比率248.0%）となった。

7. 幹部職員の配置と育成、職員の雇用と育成、労働条件の整備

○幹部職員では、老健西の京の施設長、グループホーム都和のはな管理者人事を行った。

○児童支援事業については、保育と労働条件等を統一し異動を可能することができた。2021年度4月保育からの職員の異動を行い、2022年4月管理者異動を確認した。

○安定的な雇用の促進ということでは、正規職員の確保はできたが、非常勤職員の確保に苦労している。コロナ禍において新しい募集の仕方など模索していく。

8. 社会保障を守り発展させる活動

○介護、保育、児童支援各分野の制度改善の署名や介護ウエーブに参加し現状を訴えてきた。

○保育では、2019年度大人食堂を計画していたがコロナで延期となった。職員向けに本の紹介を3回発行した。

9. 法人としての役割、組織の在り方を検討し具体化する

○毎月1回介護事業部会・保育事業部会・児童支援事業部会の運営の中で各事業所での課題や改善方法などの意見交換、確認を行い、人事、労働組合の対応、他事業所の取り組みを紹介するなど行ってきた。事務局会議では、各部からの報告、稟議決裁、課題、改善、理事会議案等について確認するなど管理運営の向上を図ってきた。

○理事会の出席率は、6名の理事で年間4回の理事会文書での決議2回で欠席者1名の96.9%（前年度100%）、評議員会は7名で、評議員2回、文章での決議の省略2回で欠席者1名の92.9%（前年度100%）でした。

○今期行われた行政監査による文書指摘事項は、パーチェ、第二パーチェ・・・個別支援計画6ヶ月に1回以上の見直しと計画の変更と減算、法人・・・相談支援パーチェの計算書類の作成、青い空・・・処遇改善Ⅰの加算率算定に係る経験年数策定表に対象者を漏れなく記載をすること、以上4件あった。文書で報告し改善した。

以上

2020年度決算報告

1. 2020年度の決算概要

事業活動のサービス活動収益は15億7,067万円となり、予算比で102.9%、4,388万円増となりました。(前年比101.3%) 事業毎では、介護事業：前年比99.5%・予算比96.5%、保育事業：前年比104.1%・予算比110.8%、児童支援事業：前年比97.1%・予算比103.2%となりました。但し、収益には新型コロナウイルス感染症関連補助金1,875万円等を含んでいます。

サービス活動費用は、14億8,820万円、予算比100.2% 267万円増となりました。事業毎では、介護事業：予算比99.6%、保育事業：予算比101.5%、児童支援事業：予算比93.5%となりました。

人件費は、人件費率73.1%で、予算比で100.2%、事業毎では、介護事業：人件費率72.5%・予算比98.8%、保育事業：人件費率73.9%・予算比101.8%、児童支援事業：人件費率57.2%・予算比95.9%となりました。

当期活動増減差額は、保育事業5,848万円・児童支援事業2,496万円の黒字、介護事業で▲1,953万円の赤字を計上し、**法人合計で7,854万円の黒字**(収益比率5%、予算比率248.0%)となりました。

<事業活動収支計算書 概要>

単位：万円

		サービス活動収益計	サービス活動費用計	サービス活動増減差額	経常増減差額	当期活動増減差額
介護事業	2020年度実績	75,123	75,674	▲ 551	▲ 221	▲ 1,953
	2020年度予算	77,842	76,008	1,834	2,025	551
	2019年度実績	75,473	75,042	430	569	▲ 1,004
	予算比	96.5%	99.6%	-30.0%	-10.9%	-354.4%
	前年比	99.5%	100.8%	-128.1%	-38.8%	194.5%
保育事業	2020年度実績	68,541	60,724	7,817	8,198	5,848
	2020年度予算	61,846	59,807	2,038	2,279	507
	2019年度実績	65,827	58,668	7,159	7,993	5,674
	予算比	110.8%	101.5%	383.6%	359.7%	1153.5%
	前年比	104.1%	103.5%	109.2%	102.6%	103.1%
児童支援事業	2020年度実績	13,403	9,990	3,412	3,414	2,496
	2020年度予算	12,990	10,684	2,306	2,308	1,648
	2019年度実績	13,800	10,079	3,721	3,723	3,061
	予算比	103.2%	93.5%	148.0%	147.9%	151.5%
	前年比	97.1%	99.1%	91.7%	91.7%	81.5%
法人合計	2020年度実績	157,067	148,820	8,247	9,122	7,854
	2020年度予算	152,679	148,553	4,126	4,649	3,166
	2019年度実績	155,100	146,931	8,170	9,324	8,540
	予算比	102.9%	100.2%	199.9%	196.2%	248.1%
	前年比	101.3%	101.3%	100.9%	97.8%	92.0%

資金収支差額合計は、積立資産支出5,100万円(※別途記載)等により、▲1,732万円の赤字となりました。

福祉医療機構の借入金（西の京分 9,211 万円）を利息の削減を図れるため、京都銀行に借換ました。事業活動資金収支差額は 1 億 3,117 万円から、固定資産取得支出 8,897 万円（補助金 2,788 万円）と借入金元金返済 3,682 万円等、不足分は前期末支払資金残高で対応しました。

＜資金収支計算書 概要＞

単位：万円

	事業活動資金 収支差額	設備資金借入金 元金償還支出	固定資産取得 支出	積立資産支出	当期資金収支 差額
20 年度実績	13,117	12,893	8,897	5,100	▲ 1,732
20 年度予算	9,802	3,918	2080	2,100	2,914
19 年度実績	15,284	3,918	3,520	6,400	1,976
予算比	133.82%	329.07%	427.74%	242.86%	
前年比	85.82%	329.07%	252.76%	79.69%	

総資産は、26 億 7,871 万円で前年度より 7,981 万円の増加となっています。流動資産は、事業活動収支の結果等で 1,683 万円の増加となっています。固定資産は、積立金等の増加、新たな固定資産の取得、減価償却減の差引で 6,278 万円の増加となっています。

負債は、5 億 3,702 万円で、年度末退職者 2 人分もあり、前期より 1,552 万円の減少となっています。長期借入金返済は 1 億 2,893 万円の返済、内 9,211 万円は医療福祉機構から京都銀行への借換です。

純資産は、当期活動収支差額の黒字、国庫補助金の積立・償却減等の結果、21 億 4,169 万円で、9,533 万円の増加となりました。

＜貸借対照表＞

単位：万円

	2020 年度	2019 年度	前期差額
総資産	267,871	259,889	7,981
流動資産	75,458	73,775	1,683
固定資産	192,413	186,114	6,278
負債	53,702	55,254	▲ 1,552
流動負債	20,152	17,054	3,111
固定負債	33,549	38,199	▲ 4,650
純資産	214,169	204,635	9,539
次期繰越活動差額	94,767	92,012	2,754
内当期活動差額	7,854	8,540	▲ 686

2. 各分野の状況

(1) 介護事業

		20 年度実績	20 年度予算	19 年度実績	予算比	前年比
特養都和のはな	入所(利用率)	95.0%	98.0%	95.9%	96.9%	99.0%
老健西の京	入所(利用率)	91.8%	96.0%	94.2%	95.6%	97.4%
	通所(1 日平均利用数)	17.9 人	25 人	20.2 人	71.6%	88.6%
GH 都和のはな	入所(利用率)	93.5%	98.0%	98.5%	95.4%	94.9%
虹の家	訪問介護 (月件数)	44.0 人	45 人	35.7 人	97.7%	123.2%

特養都和のはなのベッド利用率は95.0%（前年比99.0%）となり、目標には届きませんでした。

退所者は9人、実質の入所対象者は減少傾向で選考は難しくなっています。入院中の空き室をショートで活用しました。

退職者が多く、オリエンテーション等で人件費が嵩み、当期活動増減差額は▲830万円の大きな赤字となりました。

老健西の京は、ベッド利用率は96.0%目標で年間平均91.8%でした。新型コロナウイルス感染症対策による短期入所の利用制限、特養退所（年間32件）等もあり、空床を埋めきれいていません。在宅復帰率6ヶ月平均は46.1%です。通所リハビリテーションは、1日平均17.9人（前年度20.2人）と引き続き減少しています。当期活動増減差額は▲858万円の赤字となりました。

グループホーム都和のはなの退所者は1人、見取りを行いました。見取り後の入所に期日を要した事、入院が4人で延べ156日間になった事等、ベッド利用率は93.5%（目標98%）で、当期活動増減差額は▲244万円の赤字となりました。

ケアステーション虹の家は、管理者の育休に明けにより、訪問介護は目標45件に対し44件の到達となりました。当期活動増減差額は予算▲268万円に対し▲20万円まで（前年▲504万円）回復しました。

介護事業合計は、当期活動増減差額は▲1,953万円の赤字、当期資金収支差額は▲5,711万円の赤字と厳しい結果となりました。

<介護事業 事業活動収支計算書 概要>

単位：万円

	科目	20年度実績	構成比	20年度予算	19年度実績	予算比	前年比
特養 都和のはな	収益合計	10,347	100.0%	10,599	10,322	97.6%	100.2%
	人件費	8,067	78.0%	7,785	7,608	103.6%	106.0%
	費用合計	10,854	104.9%	10,377	10,336	104.6%	105.0%
	サービス活動増減差額	▲ 506	-4.9%	221	▲ 14	-229.0%	3614.3%
	経常増減差額	▲ 607	-5.9%	126	▲ 95	-481.7%	638.9%
	当期活動増減差額	▲ 830	-8.0%	5	▲ 68	-16600.0%	1220.6%
老健 西の京	収益合計	58,006	100.0%	60,624	58,242	95.7%	99.6%
	人件費	40,886	70.5%	41,922	40,939	97.5%	99.9%
	費用合計	57,921	99.9%	58,906	57,516	98.3%	100.7%
	サービス活動増減差額	85	0.1%	1,718	725	4.9%	11.7%
	経常増減差額	550	0.9%	2,042	969	26.9%	56.8%
	当期活動増減差額	▲ 858	1.5%	794	▲ 463	108.1%	-185.3%
GH 都和のはな	収益合計	4,530	100.0%	4,586	4,643	98.8%	97.6%
	人件費	3,631	80.2%	3,462	3,464	104.9%	104.8%
	費用合計	4,677	103.2%	4,453	4,489	105.0%	104.2%
	サービス活動増減差額	▲ 147	-3.2%	132	154	-111.4%	-95.5%
	経常増減差額	▲ 182	-4.0%	95	123	-191.6%	-148.0%
	当期活動増減差額	▲ 244	-5.4%	20	32	-1220.0%	-762.5%
虹の家	収益合計	2,238	100.0%	2,031	2,264	110.2%	98.9%
	人件費	1,879	84.0%	1,967	2,359	95.5%	79.7%
	費用合計	2,220	99.2%	2,269	2,699	97.8%	82.3%
	サービス活動増減差額	18	0.8%	▲ 238	▲ 434	-7.6%	-4.1%
	経常増減差額	18	0.8%	▲ 238	▲ 427	-7.6%	-4.2%

	当期活動増減差額	▲ 20	-0.9%	▲ 268	▲ 504	7.5%	4.0%
合計	収益合計	75,123	100.0%	77,842	75,473	96.5%	99.5%
	人件費	54,464	72.5%	55,137	54,371	98.8%	100.2%
	費用合計	75,674	100.7%	76,008	75,042	99.6%	100.8%
	サービス活動増減差額	▲ 551	-0.7%	1,834	430	-30.0%	-128.1%
	経常増減差額	▲ 221	-0.3%	2,025	569	-10.9%	-38.8%
	当期活動増減差額	▲ 1,953	-2.6%	551	▲ 1,004	-354.4%	194.5%

(2) 保育分野

各園の児童延べ人数は、白い鳩保育園 1,473 人（1 か月平均 123 人、前年度比 99.9%）、洛西保育園 1,633 人（1 か月平均 136 人、前年度比 95.1%）、あらぐさ保育園 677 人（1 か月平均 56 人、前年度比 100.4%）、青い空保育園 925 人（1 か月平均 77 人、前年度比 103.9%）となりました。

<児童数 前年対比>

保育園	児童数	20 年度	19 年度	前年比
白い鳩保育園	年間児童数	1,473	1,474	99.9%
	月平均児童数	123	123	
洛西保育園	延べ児童数	1,633	1,717	95.1%
	月平均児童数	136	143	
あらぐさ保育園	延べ児童数	677	674	100.4%
	月平均児童数	56	56	
青い空保育園	延べ児童数	925	890	103.9%
	月平均児童数	77	74	
合計	延べ児童数	4,708	4,755	99.0%
	月平均児童数	392.3	396.3	

白い鳩保育園は、当初園児の確保が厳しく、前年度末に三次調整で何とか 123 人でスタート、退園・入園で年平均 123 人の園児数を維持しました。短時間児童は 22.7%でした。

洛西保育園は、定員オーバーの 134 人でスタートしましたが、0 歳児の受入が 5 人と厳しく、年度途中に積極的に受け入れ 12 人としました。年平均の園児数は 136 人となっています。短時間児童は 12.2%でした。

あらぐさ保育園は、53 人でスタート、0 歳児は 6 人、10 人の受入を目指し 9 月に 10 人にしました。年平均児童数は 56 人、受入児童可能数をこれまでの 57 人から 60 人に切り替え、58 人まで到達しています。短時間児童は 8.8%でした。

青い空保育園は、年度当初から 120%超えの 76 人を受け入れ、最終的には 80 人の児童数となり、過去最高人数となりました。年平均児童数は 77 人、短時間児童は 29.2%でした。

サービス活動収益は、白い鳩保育園：前年比 100.4%・予算比 106.8%、洛西保育園：前年比 95.4%・予算比 106.9%、あらぐさ保育園：前年比 112.3%・予算比 113.5%、青い空保育園：前年比 117.6%・予算比 120.1%となり、全体で前年比 104.1%・2,714 万円の増収、予算比 110.8%・6,695 万円の増収となりました。

当期活動増減差額は、白い鳩保育園（197 万円の黒字）、洛西保育園（1,653 万円の黒字）、あらぐさ保育園（1,403 万円の黒字）、青い空保育園（2,594 万円の黒字）、合計で 5,848 万円の黒字（予算の 10 倍超え）となりました。

<保育事業 事業活動収支計算書 概要>

単位：万円

保育園	科目	20年度実績	構成比	20年度予算	19年度実績	予算比	前年比
白い鳩 保育園	サービス活動収益	18,777	100.0%	17,580	18,703	106.8%	100.4%
	人件費	15,257	81.3%	14,481	14,872	105.4%	102.6%
	サービス活動費用	17,890	95.3%	16,935	17,442	105.6%	102.6%
	サービス活動増減差額	886	4.7%	644	1,260	137.6%	70.3%
	経常増減差額	1,041	5.5%	791	1,429	131.6%	72.8%
	当期活動増減差額	197	1.0%	191	762	103.1%	25.9%
洛西 保育園	サービス活動収益	21,705	100.0%	20,300	22,758	106.9%	95.4%
	人件費	16,146	74.4%	16,207	16,242	99.6%	99.4%
	サービス活動費用	19,497	89.8%	19,776	20,036	98.6%	97.3%
	サービス活動増減差額	2,207	10.2%	524	2,722	421.2%	81.1%
	経常増減差額	2,213	10.2%	541	3,185	409.1%	69.5%
	当期活動増減差額	1,653	7.6%	1	2,254	165300.0%	73.3%
あらぐさ 保育園	サービス活動収益	12,434	100.0%	10,952	11,076	113.5%	112.3%
	人件費	9,030	72.6%	8,780	8,286	102.8%	109.0%
	サービス活動費用	10,818	87.0%	10,561	10,134	102.4%	106.7%
	サービス活動増減差額	1,615	13.0%	391	942	413.0%	171.4%
	経常増減差額	1,734	13.9%	391	1,049	443.5%	165.3%
	当期活動増減差額	1,403	11.3%	91	799	1541.8%	175.6%
青い空 保育園	サービス活動収益	15,623	100.0%	13,012	13,288	120.1%	117.6%
	人件費	10,239	65.5%	10,297	8,996	99.4%	113.8%
	サービス活動費用	12,516	80.1%	12,534	11,054	99.9%	113.2%
	サービス活動増減差額	3,106	19.9%	478	2,234	649.8%	139.0%
	経常増減差額	3,208	20.5%	555	2,328	578.0%	137.8%
	当期活動増減差額	2,594	16.6%	222	1,858	1168.5%	139.6%
合計	サービス活動収益	68,541	100.0%	61,846	65,827	110.8%	104.1%
	人件費	50,674	73.9%	49,767	48,398	101.8%	104.7%
	サービス活動費用	60,724	88.6%	59,807	58,668	101.5%	103.5%
	サービス活動増減差額	7,817	11.4%	2,038	7,159	383.6%	109.2%
	経常増減差額	8,198	12.0%	2,279	7,993	359.7%	102.6%
	当期活動増減差額	5,848	8.5%	507	5,674	1153.5%	103.1%

(3) 児童支援

児童発達支援事業の利用状況は、パーチェ年間3,073人（1日当たり10.6人、予算比106.0%・前年比92.2%）、第二パーチェ年間2,618人（1日当たり9.0人、予算比103.4%・前年比94.7%）、パーチェ梅小路年間2,574人（1日当たり8.8人、予算比97.8%・前年比94.6%）、相談支援パーチェ計画相談299件（月平均24.9件、前年比99.0%）

モニタリング275件（月平均22.9件、前年比114.5%）となっています。

	2020年度			2019年度	1日当たり増減	
	利用者数	1日当たり	1日当予算	1日当たり	予算比	前年比
パーチェ	3,073	10.6	10.0	11.5	106.0%	92.2%
第二パーチェ	2,618	9.0	8.7	9.5	103.4%	94.7%
パーチェ梅小路	2,574	8.8	9.0	9.3	97.8%	94.6%
合計	8,265	28.4	27.7	30.3	102.5%	93.7%

サービス活動収益は、パーチェは予算比103.3%・前年比93.4%、第二パーチェは予算比103.2%・前年比97.6%、パーチェ梅小路は予算比98.8%・前年比100.5%、相談支援パーチェは予算比116.5%・前年比100.25%、合計で予算比103.2%（413万円の増収）・前年比97.1%となりました。

当期活動増減差額は、パーチェ831万円、第二パーチェ749万円、パーチェ梅小路601万円、相談支援事業パーチェ314万円、合計で2,496万円の黒字（予算比151.5%）となりました。

京都市の指導監査により、計画作成減算の指摘を受け、5年間を遡り、パーチェは▲393万円、第二パーチェは▲49万円の返還を行いました。

〈児童支援事業 事業活動収支計算書 概要〉

単位：万円

	科目	20年度実績	構成比	20年度予算	19年度実績	予算比	前年比
パーチェ	サービス活動収益	4,579	100.0%	4,432	4,902	103.3%	93.4%
	人件費	2,535	55.4%	2,749	2,770	92.2%	91.5%
	サービス活動費用	3,364	73.5%	3,659	3,600	91.9%	93.4%
	サービス活動増減差額	1,215	26.5%	773	1,301	157.2%	93.4%
	経常増減差額	1,216	26.6%	773	1,302	157.3%	93.4%
	当期活動増減差額	831	5.5%	593	1,122	140.1%	74.1%
第二パーチェ	サービス活動収益	3,978	100.0%	3,854	4,074	103.2%	97.6%
	人件費	2,107	53.0%	2,333	2,193	90.3%	96.1%
	サービス活動費用	2,954	74.3%	3,396	3,032	87.0%	97.4%
	サービス活動増減差額	1,024	25.7%	458	1,042	223.6%	98.3%
	経常増減差額	1,024	25.7%	458	1,042	223.6%	98.3%
	当期活動増減差額	749	18.8%	218	802	343.6%	93.4%
パーチェ 梅小路	サービス活動収益	3,934	100.0%	3,983	3,916	98.8%	100.5%
	人件費	2,540	64.6%	2,432	2,270	104.4%	111.9%
	サービス活動費用	3,076	78.2%	3,027	2,856	101.6%	107.7%
	サービス活動増減差額	858	21.8%	955	1,059	89.8%	81.0%
	経常増減差額	859	21.8%	956	1,060	89.9%	81.0%
	当期活動増減差額	601	15.3%	716	820	83.9%	73.3%
児童相談支援 パーチェ	サービス活動収益	909	100.0%	780	907	116.5%	100.2%
	人件費	480	52.8%	480	480	100.0%	100.0%
	サービス活動費用	595	65.5%	594	589	100.2%	101.0%
	サービス活動増減差額	314	34.5%	290	317	108.3%	99.1%

	経常増減差額	314	34.5%	290	317	108.3%	99.1%
	当期活動増減差額	314	34.5%	290	316	108.3%	99.4%
合算	サービス活動収益	13,403	100.0%	12,990	13,800	103.2%	97.1%
	人件費	7,663	57.2%	7,995	7,714	95.8%	99.3%
	サービス活動費用	9,990	74.5%	10,684	10,079	93.5%	99.1%
	サービス活動増減差額	3,412	25.5%	2,306	3,721	148.0%	91.7%
	経常増減差額	3,414	25.5%	2,308	3,723	147.9%	91.7%
	当期活動増減差額	2,496	15.7%	1,648	3,061	151.5%	81.5%

3. 積立金の提案

各保育園の当期末支払資金残高と委託費（委託費の減少傾向）の比率を考慮し、以下のように積立金の積み立てを行います。

① 当期資金収支差額＋各種積立金／事業活動収入（決算額） 5%以内 超えた場合は収支分析計算書の作成

	当期資金収支差額	積立金	修正 資金収支差額	事業活動収入	比率
白い鳩	757,181	1,000,000	-242,819	189,365,971	0.40%
洛西	21,016,586	21,000,000	16,586	217,350,390	9.67%
あらぐさ	10,037,893	9,000,000	1,037,893	125,555,653	7.99%
青い空	24,559,121	20,000,000	4,559,121	157,352,910	15.61%
	56,370,781	51,000,000	5,370,781		

② 当期末支払資金残高／委託費収入 30%以下

	当期末支払資金残高	積立金	修正 当期末支払資金残高	委託費収入	比率
白い鳩	41,375,327	1,000,000	40,375,327	145,679,040 前年 152,061,330	27.72%
洛西	68,131,391	21,000,000	47,131,391	162,879,320 前年 172,930,130	28.94%
あらぐさ	36,579,281	9,000,000	27,579,281	106,013,360 前年 97,197,280	26.01%
青い空	52,536,714	20,000,000	32,536,714	123,394,420 前年 111,673,430	26.37%
	198,622,713	51,000,000	147,622,713		

<白い鳩保育園>	前期末支払資金残高	取り崩し額	242,819円
	施設設備整備積立金	100万円	
<洛西保育園>	施設設備整備積立金	2,100万円	
<あらぐさ保育園>	施設設備整備積立金	900万円	
<青い空保育園>	施設設備整備積立金	2,000万円	
	合計	5,100万円	

4. 利益処分の提案

以下のように利益処分を行います。

今期繰越利益	78,546,861
今年度積立金	51,000,000
次期繰越増減差額に繰入	27,546,861

5. 社会福祉充実計画の対応

社会福祉充実残額は0円となり、社会福祉充実計画の対象ではありませんでした。

以上